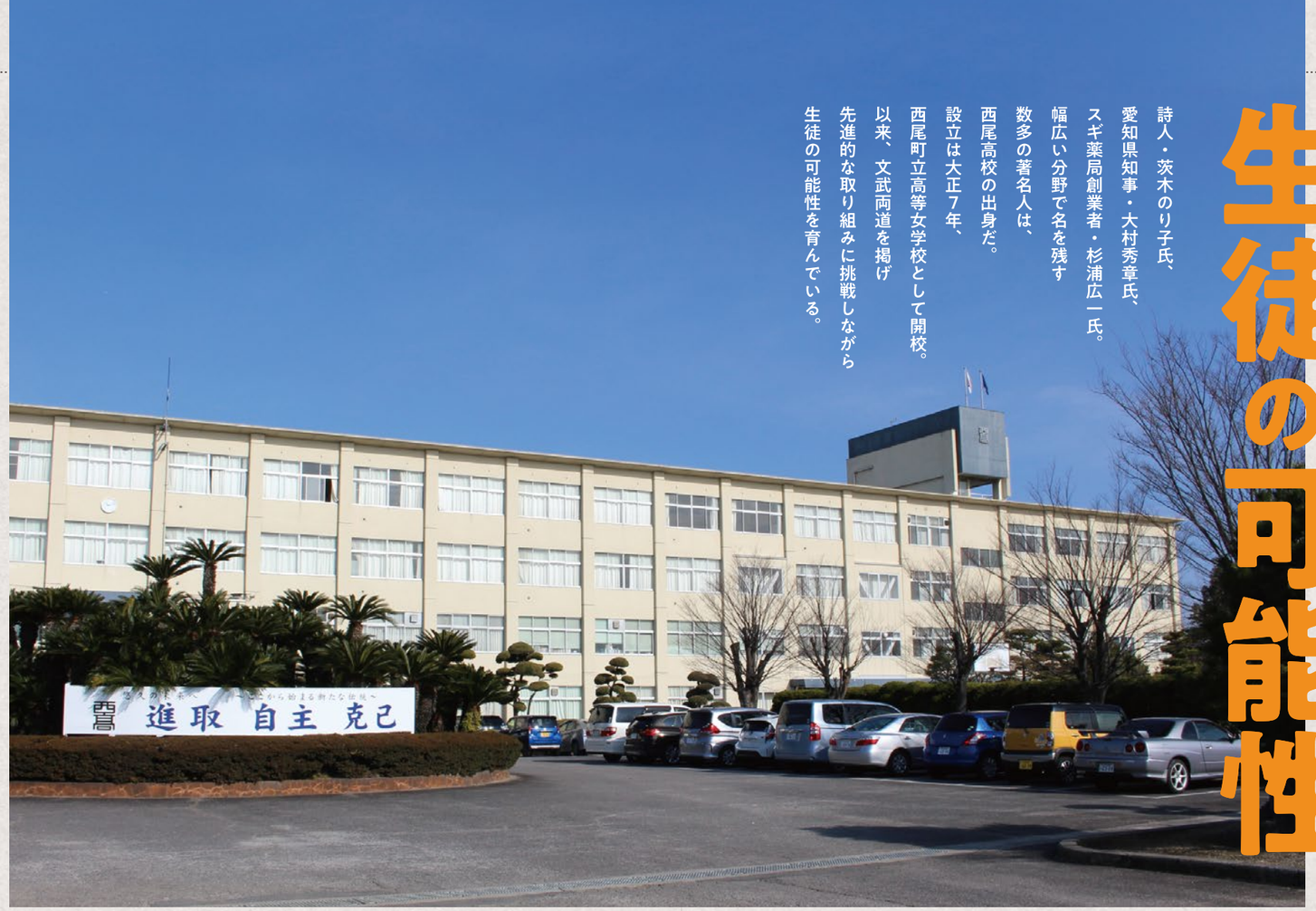
# 愛知県立西尾高等学校

# 101年の伝統が導く生徒の可能性

**まちと歴史を刻んだ101年**
**生徒の未来を広げる学び舎**

詩人・茨木のり子氏、愛知県知事・大村秀章氏、スギ薬局創業者・杉浦広一氏。幅広い分野で名を残す数多の著名人は、西尾高校の出身だ。設立は大正7年、西尾町立高等女学校として開校。以来、文武両道を掲げ先進的な取り組みに挑戦しながら生徒の可能性を育んでいる。



校訓に掲げる「進取・自主・克己」の精神。知性高く、情操豊かで、進取の気性、強固な克己心を備えた健康な生徒を育成している

「わたしが一番きれいだったとき
街々はがらがらと崩れていって
とんでもないところから　青空なんか見えたりした」
書き出しから戦時下の壮絶さが伝わる詩『わたしが一番きれいだったとき』。国語の教科書にも掲載された名作は、愛知県西尾高等女学校出身の詩人・茨木のり子が詠んだ。まちの歴史とともに歩んできた西尾高校は、他にも多くの著名人を輩出している。

歴史は明治時代にまで遡る。明治43年設立の私立西尾女学校が大正3年に廃校。女子教育振興の役割は、同年に創立された西尾町立女子技芸学校に受け継がれた。そこで地域が高等女学校の開設を要望した結果、大正7年に西尾町立高等女学校が誕生。5年後に愛知県西尾高等女学校と改称された。

大正15年には、県下13番目の中学校として愛知県西尾中学校が設立。両校が合併し、昭和23年に男女共学の愛知県立西尾高等学校となった。「今年で102年目を迎えた、地域を代表する伝統ある進学校です。文化人、政治家、経営者など、多くの偉人がここで学んできました」とほほ笑むのは、三浦信永教頭。元西尾市長3人のほか、画家・斎藤吾朗さん、俳優・近藤公園さん、ヨーヨーパフォーマー・鈴木裕之さんなど、幅広い分野で卒業生が活躍している。

## 現代に求められる能力を育成 経験から視野を広げる

進学校の西尾高校は、実践的な授業に取り組んでいる。なかでも、今後さらに求められる能力として、国際理解教育の充実には積極的だ。

平成25年から始まった「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」は、愛知県教育委員会の指定を受けた県立高校が先進的な英語教育の研究実践をする事業。西尾高校は西三河の西尾・岡崎・幸田圏内13校の拠点校であり、英語の読む・聞く・話す・書く力をバランスよく育成するため、授業にプレゼンテーションやショートスピーチなどを取り入れている。

昨年から西尾高校独自で始めたのは、オーストラリア英語研修。毎年8月に生徒25人がブリスベンを訪れ、現地高校での語学研修や授業体験に加えホームステイ、野生動物保護区や大学訪問といった貴重な体験をする。英語教科を担当する三浦教頭は事前に現地へ赴き、生徒が学ぶ環境を視察。オンラインでの課題実施など設備の充実も感じたという。「英語だけでなく、海外の文化や習慣も肌で感じられます。生徒にとって良い経験になったと思います」と力を込める。生徒は国際交流で異文化に触れ、自国の魅力を発信する力の必要性など、海外研修ならではの気付きで視野を広げる。

ほかにも、理数教育の取り組みとして、大学や研究機関との連携授業を実施。夏休みなどに生徒が積極的に参加している。また、「科学の甲子園」出場や「知の探究講座」、「科学三昧inあいち」研究成果発表など、実験・実習を通した研究活動にも取り組んでいる。

（左上から）三浦信永教頭
尾崎浩仁特別活動部主任
（左下から）川井啓介教頭
平井博司校長

大正7年の西尾町立高等女学校が写る貴重な写真。周囲の町並みから時代をうかがえる

## 文武両道を誇り個性を育む 受け継がれる母校の精神

文武両道を掲げ、部活動も活発だ。昨年、登山部女子が2年連続でインターハイ出場。陸上競技部では、女子三段跳びで本多柚稀さんが東海高等学校新人陸上競技選手権大会6位入賞し、卓球部からはジュニア女子シングルスで伴咲穂さんが中部日本卓球選手権大会に出場した。サッカー部、柔道部、バドミントン部なども愛知県大会で善戦し、ベスト8やベスト16の成績を残している。

校外学習や修学旅行、球技大会など、高校3年間の大切な思い出となる行事もたくさんある。生徒が自らの興味を深め、好きなことを追求できる校風が西尾高校で受け継がれている。平井博司校長は「やりたいことを突き詰めてほしい。それはむしろ勉強よりも大切かもしれません。生徒が個性を生かし、伸び伸びと学べる校風があります」と目を細めた。

取材には平井校長、三浦教頭、川井啓介教頭、尾崎浩仁特別活動部主任が応じてくれた。聞けば4人とも西尾高校出身で、母校で教壇に立つ教諭も珍しくないという。「これまで西尾高校は、地元の方と地域密着で歩んできました。私自身、いい高校を卒業できてよかったとの思いがあり、後輩にも型にはまらず、伸び伸びと学んでほしい。そしてこの先、母校を愛し、広く活躍してほしいですね」と笑顔を見せた。

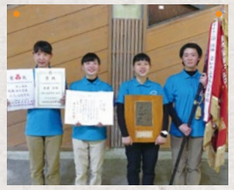
もうすぐ卒業と入学の時期がやってくる。西尾高校で貴重な3年間を過ごした多くの生徒が、地域の期待を背負って各地に羽ばたいていく。

生徒会の皆さん
（左上から）1年生の副会長・渡邊宥和さん
1年生の会長・近藤大将さん
（左下から）1年生の会計兼校風部長・川部翔太さん
1年生の美化部長・伊藤慶太朗さん

## School life
Nishio highschool

**英語研修①**
オーストラリア英語研修では、ブリスベン近郊のナランガバレー州立高校で語学研修を実施。授業参加や休み時間での交流を通し、異文化理解を深めた

**英語研修②**
飛行機の乗り換え時間を利用してシンガポールを観光。オーストラリア英語研修では、勉学に限らず、楽しい思い出作りも大切にしている



**部活動**
2年連続インターハイ出場を決めた登山部女子。強豪として知られ、顧問の熱意と豊富な知識のもと日々練習に励んでいる

**授外学習**
夏の科学講座では、1・2年生21人が岐阜県先端科学技術体験センターで実験に挑戦。センター講師による指導のもと、学校では実施が難しい実験に取り組んだ

**特別授業**
毎年、県内大学の教員が教壇に立つ「大学出前講座」を実施。日常生活に近づいた分かりやすいテーマで講義が開催される

文／杉浦萌　写真／西尾高校提供、編集室　デザイン／武長繭子